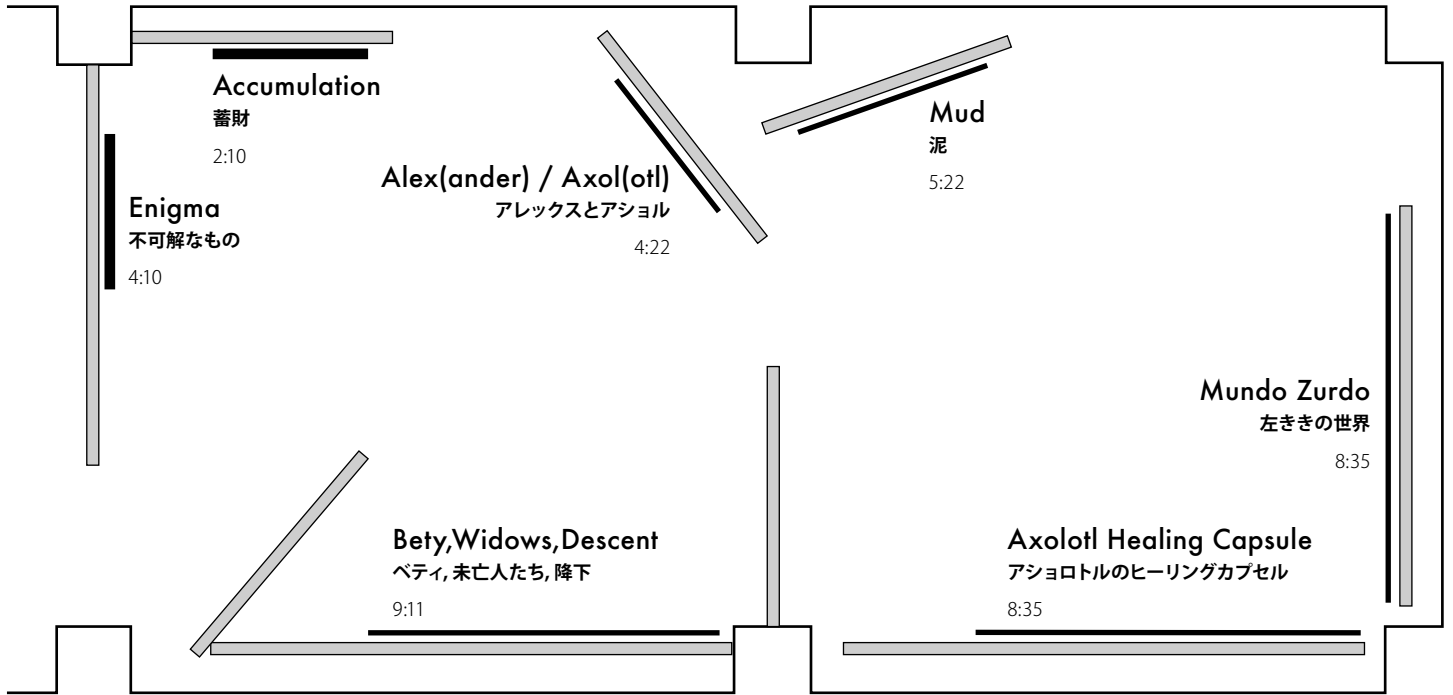


The Formaldehyde Trip

Naomi Rincón Gallardo



The Formaldehyde Trip

ホルムアルデヒド・リップ

2017

《The Formaldehyde Trip》は、オアハカ州の先住民民族ミステカの環境活動家で2010年に殺害されたベティ・カリニョ（1973～2010年）が冥界を巡る、政治的・シュールリアリスティック・超時空的な旅の物語。

ここではメソアメリカの神々、魔女、動物などの仲間たちが、彼女の遺志を伝えるために力を貸し、協力する。ベティの旅は、夜の力を象徴するとされるメキシコの月の女神・コヨルシャウキになるまでのプロセスであり、バラバラにされた身体の断片を再びひとつに戻すことで、深い傷から回復する能力を具現化している。

ホルマリン漬けにされたアショロトル（アホロートル）は、この物語の語り部であり、先住民の教育を受けたガイドであり、アレクサンダー・フォン・フンボルト（ドイツの博物学者／1769-1859）の欲望・研究の対象であり、増殖するディルドであり、癒しのカプセルであり、過去と現代における植民地的な採取主義（Extracvtivism）を旅するゴーストのような生き物である。

Naomi Rincón Gallardo

ナオミ・リンコン・ガヤルド

1979年米国ノースカロライナ州生まれ。現在は、メキシコシティとオアハカを行き来しながら活動する。自身のことを「グローバル・サウス出身の、有色のクィア、脱植民地のフェミニスト、ビジュアルアーティスト、抜け目のない研究者」と語ります。

グローバルな権力による資源の収奪のプロセスや異性愛中心の家父長制的な暴力に対するレジリエンス、不服従、欲望の物語を作り上げ、スペキュラティブ・フィクション、シアターゲーム、ミュージックビデオ、土地の祭礼や工芸への関心を統合し、クィア／デコロニアルの観点から作品制作をおこなう。

その作品は、人種・民族・ジェンダー・セクシュアリティ・階級といった様々な権力関係の交差によって強いられた個人や集団への抑圧に、多様な性やジェンダー表現、喜び、憤り、祝福をもって対抗し、それを別のかたちの世界へと転換する欲望と活力を煽る。

近年の展覧会に、第11回ベルリン・ビエンナーレ（2020）、第59回ヴェネチア・ビエンナーレメキシコ館（2020）他。

Enigma

不可解なもの

アショロトルはメキシコ固有種の両生類で、いくつかの神話や研究、メタファーのインスピレーション源となってきた。その特異性のひとつは幼生期の特徴を維持したまま性的に成熟することである。幼生の状態でも完全に生殖が可能で、手足や器官を再生する能力を持っている。このように幼生の特徴を維持したまま幼形進化することをネオテニーと呼ぶ。

Accumulation

蓄財

このシーンのモチーフは、デヴィッド・ハーヴェイの「略奪による蓄積」という概念から借用したもので、資本蓄積の新たな段階を表現している。この搾取的なプロセスは、民営化の拡大、社会福祉の破壊、金融投資と強制的な市場自由化、仕組まれた危機、天然資源の商品化、文化の改変を伴う。

古びた軍事ビデオゲームを想起させる映像は、ネオコロニアルで新自由主義の流用が常態化するという暴力にさらされ続ける状況下の社会状況を描いている。

Alex(ander) / Axol(otl)

アレックスとアショル

プロイセンの科学者・探検家のアレクサンダー・フォン・フンボルトは、スペインの植民地を探検した際にアショロトルを「発見」し、ヨーロッパに標本数匹を持ち帰った。

18世紀のベルリン・動物解剖学研究所が舞台。ドラァグ・キング（男性装をした女性パフォーマー）のアレックス（フンボルト）がアショル（アショロトル）と親密でエロティックな出合いを演じる。彼らの関係は、植民者と被植民者の支配的な関係性の先に位置している。やがてアレックスはアショルを科学的に分類し、記述し、研究の対象とする。

中南米大陸におけるフンボルトの探検は、スペイン王室とその植民地主

義的な体制によって援助された。探検の終わり頃に米国を訪れ、トーマス・ジェファーソン米大統領のもてなしを受けたフンボルトは、メキシコ以南の天然資源の地図、植民地の政治的分析についての詳細な記述を共有した。近代西洋の知識は、土地・知識・労働力のさらなる植民地的主義的な略奪に伴って蓄積されていったと言える。

Bety, Widows, Descent

ベティ, 未亡人たち, 降下

〔Bety〕 田園風景の中で護身術の練習をするベティ。彼女の戦友が彼女を見つけてそれに加わり、訓練は次第に集団的な護身術の身振りになっていく。リリックは、殺された瞬間から、死者の世界より語りかけるベティの姿を想像させる。彼女の言葉は死後も残り、共鳴し、再定義される。彼女の仲間は、ベティのスピーチの断片を朗読する。ベティは、自分の魂は種であると告げ、自分は不死身の存在となって復活することを告げる。

〔Widows〕 女性たちはハーブや花でベティの体を清め、モレソースやトルティーヤをこしらえ、冥界への旅立ちに先立つ祈りの準備をする。そしてベティの通夜で彼女たちの体を温めるショールを織りしながら、生者と死者のケアに関する古代の知識を活性化させる。

〔Descent〕 暗い夜、ベティは何度も何度も倒れる。彼女の姿はぼやけて消えていく。焚き火を囲んで彼女を見守る女性たち。その後、ベティはさまざまな戦士に姿を変える。ベティとともに、女性たちはじっとファイティングポーズをとっている。

Mud

泥

メソアメリカの宇宙論では、洞窟は冥界への入り口であり、大地の口やへそでもある。人が死ぬと、その心臓は地中の種になると考えられている。このシーンでは、人間ではないクシアな生き物の一団が、ベティの種になる粘土をこねるために洞窟の中に集まる。

これらの生き物たちは、快感と衝動に満ち、集合的な一体感を演じている。「アショロトルはすぐにヴァギナに入りたがる」という言い伝えを想い起こさせるかのように、紐のついたディルドとして物語に戻ってくる。

Axolotl Healing Capsule

アショロトルのヒーリング・カプセル

アショロトルは船となり、治療中のベティを護衛する女戦士の仲間を運ぶ。この船はアショロトルの生息地であるソチミルコ湖に棲む癒しのカプセルである。手足を再生するアショロトルの能力から癒しの力を得ている。船が湖岸に着くと、その群れは船を解体し、アショロトルの身体を陸地に運ぶ。

彼女らはそれを大地に降ろし、火をつける。戦士たちは来るべき啓示のための抵抗のしるしを呼び出しながら、火花を上げるアショロトルのまわりに佇んでいる。

Mundo Zurdo

左ききの世界

複数の乳首がきらめくダークコスモスに浮かぶベティの身体の断片。彼女のバラバラになった身体は、コヨルシャウキの身体を想起させる。冥界の戦士と生き物たちは、ベティ／コヨルシャウキの周囲で踊りながら、ベティの断片化された身体を元に戻すためのエネルギーを発する。彼女らはベティの復活を呼び起こすため一つになる。

credit

THE FORMALDEHYDE TRIP

2017

【脚本・監督】 Scripted and Directed

Naomi Rincón Gallardo

【作曲・音響デザイン】 Musical composition and Sound Design

Federico Schmucler

【作詞】 Lyrics

Naomi Rincón Gallardo

【出演】 Cast

Bárbara Lázara, Liz Misterio, Dayra Fyah, Sure Elizabeth, Betza Mee, Claudia López Terroso, Rosario Ordóñez, Lucina Rojas, Luis Enrique García, Olivia Hernández, Denise Benavides, Brown Amy, Alma Herrera-Pazmiño, Iris Janet Díaz, Sophia Mabelitini, Oscar Tidd, Marie Strauss, Naomi Rincón Gallardo

【撮影】 Cinematography

[Mexico] Dalia Huerta, [San Francisco] Ilona Berger, [Berlin] Gabriel Rossell, [Vienna] Silvia Das Fadas

【編集】 Video Editing

Dalia Huerta, Naomi Rincón Gallardo

【撮影助手】 Camera assistant

[San Francisco] Jill Reiter

【振付】 Choreography

Sophia Wang

【音響・音楽共同アレンジ】 Sound Engineer and co-arranger of music

David Molina

【ヴォーカル】 Vocals

San Cha, Danishta Rivero, Bárbara Lázara, David Katz, Rob Spector, Dayrah Fyah, Sure Elizabeth

【プロダクション・マネージャー】 Production manager

[Mexico] María Fernanda Ayala Guzmán, [San Francisco] Gina Basso (SF MOMA)

【制作アシスタント】 Production assistants

[San Francisco] Chrisitan Davies, Julio Badel

【舞台美術・小道具】 Set Building, Props

Christian Davies, Julio Badel, Gina Basso, Frank Smigiel, Emilio Converso, Naomi Rincón Gallardo

【衣装デザイン】 Costume design

Naomi Rincón Gallardo

【縫製】 Seamstresses

Estela Escandón, Dorothy Martínez

【写真記録】 Photo Documentation

Fabiola Torres-Alzaga, Eliana Cetto, Claudia López Terroso, Kathrin Sonntag

【アニメーション】 Animation in Accumulation by Dispossession

Elisa Navarro, Galamot Shaku

【メイク】 Make up

Tae Solana, Abril Cendi

本作はサンフランシスコ近代美術館のプロジェクト「Performance in Progress」での委嘱作品で、パフォーマンス&映像部門アソシエイト・キュレーターのFrank Smigielと、Galería de la Razaエグゼクティブ・ディレクターのAni Riveraによる共同キュレーションで製作されたものです。